ゆきちかた

ふるさとうたの風土記

なもらした

あわじのうた　―ふるさと うたの風土記―

昭和六十年三月三十日発行

編集・発行――兵庫県立図書館（明石市明石公園一―二七）

印　刷――ウニスガ印刷（西脇市和布町三九）

兵庫県知事

夜明け前
乳白色の霧が海峡を包み
海と空が一つに融けあう神秘な空間
そは　遠き昔
神々が創り給うた
国生みの世界か――

朝　陽が昇る
花が咲き　海鳥が舞い
潮騒が鳴りひびく
生なるものの　いのちの鼓動が
新たな時を刻み始める

ああ　星移り　人変わるとも
海人族の熱き血汐はいまも流れて
人形の歌に愛がもえ
白銀の橋にふれあいの灯が点る
美しの自然島　淡路
大八洲のふるさと　淡路
いま　二〇〇一年へ飛翔のとき

「くにうみの祭典」に栄光あれ

おのころ島あわじには
古来から多くの句や歌がある
今
これらをまとめて
遠く　くにうみのふるさとを偲ぶ
よすがとしたい

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

目次

淡路……1
洲本市……43
先山・三熊山・由良
津名郡……57
津名町……59
淡路町……60
岩屋・絵島・松帆の浦・大和島
東浦町……80
北淡町……81
浅野・富島・野島・仁井
一宮町……93
伊弉諾神宮・江井岬・草香
五色町……96
五色浜
三原郡……97
諭鶴羽山
緑町……100
倭文
西淡町……102
慶野松原
三原町……106
おのころ島
南淡町……110
煙島・淳仁天皇陵・水仙郷・灘・鳴門・沼島・福良
人物……137
採録文献……147

淡路

あかしかたしほ風さむく月さえてしまかくれなくさよ千とりかな

雅有　（隣女和謌集）

秋かせの音かときけはあはちかた時雨すくとてときうつすなり

長方　（謌枕名寄）

秋ふかきあはぢの嶋の有明にかたぶく月を送るうらかぜ

前大僧正慈円　（新古今和歌集）

朝されば　妹が手に纏く　鏡なす　御津の浜びに　大船に　真楫繁貫き　韓国に　渡り行かむと　直向ふ　敏馬をさして　潮待ちて　水脈びき行けば　沖辺には　白波高み　浦廻より　漕ぎて渡れば　吾妹子に　淡路の島は　夕されば　雲居隠りぬ　さ夜ふけて　行方を知らに　吾が心　明石の浦に　船泊めて　浮寝をしつつ　わたつみの　沖辺を見れば　漁する　海人の娘子は　小船乗り　つららに浮けり　暁の　潮満ち来れば　葦辺には　鶴鳴き渡る　朝凪に　船出をせむと　船人も　水手も声よび　鳰鳥の　なづさひ行けば　家島は　雲居に見えぬ　吾が思へる　心和ぐやと　早く来て　見むと思ひて　大船を　漕ぎわが行けば　沖つ波　高く立ち来ぬ　外のみに　見つつ過ぎ行き　多麻の浦に　船を停めて　浜びより　浦磯を見つつ　泣く児なす　哭のみし泣かゆ　海神の　手纏の玉を　家裏に　妹に遣らむと　拾ひ取り　袖には入れて　返し遣る　使無ければ　持てれども　験を無みと　また置きつるかも

反歌二首

多麻の浦の沖つ白珠拾へれどまたそ置きつる見る人を無み

秋さらばわが船泊(は)てむ忘れ貝寄せ来て置けれ沖つ白波

遣新羅使人　（万葉集）

あさなぎにすゞきつりにやあはぢがた浪なきおきに舟もいづらむ

頓阿法師　（続草庵和歌集）

朝日影さすが波間にあらはれて霞めば消ゆる淡路島山

後村上院御製　（新葉和歌集）

朝びらきあすはわたらむあはぢ島われをまつごと波の上にみゆ

井上通泰　（南天荘集）

朝まだき垂水の澳(おき)をみわたせば霞ぞわたる淡路嶋山

公衡　（治承二年三月十五日権祢宜重保別雷社歌合）

朝夕に見ればこそあれ住吉の浦より遠地の淡路島山

津守国冬　（新後拾遺集）

あともなきなからのはまの浪まよりかすみてうすきあはち島山

民部卿為家卿　（夫木和歌抄）

粟島に漕ぎ渡らむと思へども明石の門波いまだ騒けり

作者未詳　（万葉集）

あはちかたおきこく船のほかに又これもとわたる郭公かな

藤原光俊朝臣　（夫木和歌抄）

淡路潟梶音す也ちたのえのあさけの霧にかたほかくれて

覚性法親王　（夫木和歌抄）

淡路潟せとの塩さゐ心して渡る船人月やまつらむ

（続松葉集）

あはち潟月にやさそふ友千鳥あはと遥に鳴て行らん

（続松葉集）

淡路潟なだ漕ぎわたる船人の苦しとよそに見えぬばかりぞ

頓阿法師　（草庵和歌集）

あはぢがた波にうきねのながきよは月に心のやどるなりけり

（為忠集）

あはぢがたなみまの月をふきしをれうらこぐ船のあとのしほかぜ

（後鳥羽院集）

あはぢ潟日はかたぶきて夕汐にながせる船の帆かげ涼しも

木下幸文　（亮々遺稿）

あはぢかた往来の舟の友がほに通ひなれたる浦ちどりかな

藤原定家　（拾遺愚草）

あはちかた小舟こきいつるゆふかせに浪ちををくるさほしかのこゑ

家長　（詞枕名寄）

淡路島秋なき花をかざしもて出づるも遅し十六夜の月

藤原定家　（拾遺愚草員外）

淡路島あぢまさの島も霞みけりおのころ島に春やたつらむ

栗田土満　（岡の屋歌集）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

あはち嶋哀と見すは浪を荒み戸渡る船の浮は忘れし

（続松葉集）

あはちしまあはれと見てやその神にあまくたりましあともたれけむ

（橘為仲朝臣集）

淡路しまいそわの桜咲にけりよきてをわたれせとの塩風

平忠盛朝臣　（夫木和歌抄）

淡路島磯回の千鳥こゑ繁み瀬戸の潮風さえわたる夜は

西行法師　（山家集）

あはち島おきこく船のほの〳〵とかすみを分て松風そふく

雅経　（明日香井集）

あはし島かさまにわたる塩舟のからろの音そおきにきこゆる

家良　（夫木和歌抄）

あはち島かよふしるへに立けふり霞にまかふ須磨の明ほの

沙弥寂蓮　（正治二年院御百首）

淡路島かよふ千鳥の声たけぬ入る山の端もすみの江の月

（順徳院御集）

淡路島かよふ千鳥のしば〳〵に羽掻くまなく恋やわたらむ

源実朝　（金槐和歌集）

あはぢ島かよふちどりのなく声にいくよねざめぬすまのせきもり

源兼昌　（金葉集）

あはち島き、うこく舟のかちをとを汀の鴛やともときくらん

（秘蔵抄）

あはちしましくれのしたにゆく舟をしかのねなからをくる山風

後鳥羽院　（夫木和歌抄）

あはぢしましほのととひをまつほどにすずしくなりぬせとの夕風

（登蓮集）

淡路島しるしのけむり見せわびて霞をいとふ春の船びと

前内大臣　（新勅撰和歌集）

あはち島迫門のしほ合はる〳〵と波路隔て千鳥鳴らむ

頓阿法師　（草庵和歌集）

淡路しませとの潮風さむからしつまどふ千鳥声しきるなり

前参議経盛　（玉葉和歌集）

あはぢ島せとの潮干の夕暮に須磨より通ふ千鳥なくなり

西行法師　（山家集）

淡路島瀬戸の波凝は高くともこの潮にだにおし渡らばや

西行法師　（山家集）

淡路島千鳥しば鳴く朝ぼらけ残れる月の影ぞ寂しき

慈鎮和尚　（拾玉集）

淡路島千鳥とわたる暁に松風聞かむ住吉の浦

慈鎮和尚　（拾玉集）

淡路島ちどりとわたる声ごとにいふかひもなくものぞ悲しき

藤原定家　（拾遺愚草）

淡路島月落ちかゝる明方に漕ぐやみ舟の音ぞ身にしむ

（後鳥羽院御集）

淡路島月にぞ厭ふ住吉の松風払ふ有明の空

慈鎮和尚　（拾玉集）

あはぢ島月のかげもてゆふだすきかけてかざせる須磨の浦浪

藤原定家　（拾遺愚草）

あはち島とわたる雁の秋風に声ほにあくる浪のをちかた

民部卿為家卿　（夫木和歌抄）

淡路島とわたる千鳥心せよしほ風はやし須磨の曙

慈鎮和尚　（拾玉集）

淡路島門渡る船の楫間にもわれは忘れず家をしそ思ふ

作者未詳　（万葉集）

淡路島とわたる舟やたどるらむ八重立ちこむる夕霞かな

中院入道右大臣　（新勅撰和歌集）

淡路島難波をかけて見渡せば波のいろはの葦手なりけり

家隆　（壬二集）

淡路島浪に落ちぬる暁の曇らで明くる有明の月

（後鳥羽院御集）

淡路島波もてゆへる山の端にこほりて月のさえわたるかな

前大納言忠良　（続後撰和歌集）

淡路島はるかにみつる浮雲もすまの関屋に時雨れきにけり

従二位家隆　（玉葉和歌集）

淡路島吹きこす秋の波風に類ふを鹿の声のはるけき

家隆　（壬二集）

あわじしままだ明けずしてうすあかるし渚に出し人は動かぬ

香川進

あはぢしま松はもとよりおなじ色のみどりもふかき春霞かな

（如願集）

あはち島まつふく風のをろすかときけはいそへにあきさたつなり

俊恵法師　（夫木和歌抄）

淡路島向ひの雲の村時雨染めも及ばぬ住吉の松

前中納言定家　（新後拾遺和歌集）

あはちしまゆきあふせとのしほさきにやすくもわたる友ちとりかな

民部卿為家卿　（夫木和歌抄）

淡路島夕立すらし住吉の浦のむかひにかゝる村雲

前内大臣基　（続拾遺和歌集）

淡路島夕日隠れの波の上に釣する海士は袖や涼しき

家隆　（壬二集）

淡路島ゆふべの波を住吉の松さへかざす春のうら風

家隆　（壬二集）

あはちしまわたるちとりもしろたへのなみまにかさすおきつしほかせ

雅経　（明日香井集）

あはぢにてあはとはるかにみし月のちかきこよひは心がらかも

躬恒　（新古今和歌集）

あはちふねきりかくれこくさほ歌の声はかりこそせとわたりけれ

守覚法親王　（夫木和歌抄）

あはと見る淡路の島のあはれさへ残るくまなく澄める夜の月

源氏　（源氏物語　明石）

あふくそようかへる波のあはちしま六十余りの国のはしめを

基熙　（新明題集）

有明の月は波間に影みえて浦風遠し淡路しま山

後照念院関白太政大臣　（新千載和歌集）

荒磯越す波をかしこみ淡路島見ずか過ぎなむここだ近きを

作者未詳　（万葉集）

いかにせむとふひも今はたて侘びぬ声も通はぬ淡路島山

（左京大夫顕輔卿集）

出でてこしわが住む山の月見ても慰めがたき旅のそらかな

鈴木重胤

入る月の入るは淡路の島隠れ人を導く道と知らずや

慈鎮和尚　（拾玉集）

海原にをのころ島のあらはれてわかすへらきの御代そ久しき

中原師光朝臣　（夫木和歌抄）

海越えて遠く来ませる君のため鳴門みかんをもぐ雨の中

川端千枝

浦遠き難波の春の夕なぎに入日かすめる淡路島山

中務卿宗尊親王　（続拾遺和歌集）

澳（おき）つ島浮べる見れば波の上に我も住ままくおもほゆるかも

天田愚庵

送りこしみかんの箱を結へたる荒縄みれば遠しふるさと

川端千枝　（白い扇）

大君の遠の朝廷（みかど）とあり通ふ島門を見れば神代し思ほゆ

柿本朝臣人麿　（万葉集）

大汐の淡路のせとの吹分にのぼりくだりの片帆あぐらん

田岡嶺雲　（孤島の秋）

おほしまやあはちのせとのふきあけにのぼりくたりにかたほかくらん

前中納言匡房卿　（夫木和歌抄）

かすが山みねこぐ船のやくしでらあはぢの嶋のからすきのへら

久米広足　（奥義抄）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com